



ローマ法王との謁見

ヨハネ・パウロ二世と握手をかわす神宮大宮司と団長



発行兼編集者
 鶉 戸 神 宮
 社 務 所
 印刷所
 西 日 本 印 刷

ごあいさつ

宮司 長友安 美

薫風の候、氏子、崇敬者の皆々様諸兄氏にはお変わりもなく、愈々ご健勝の事と拝察申し上げます。

当神宮の境内地の山にもまだ鶯の声が聞かれ、夏末だしの今頃であります、新緑の色が裡に映え、いよいよ南国特有の日差しが到来するのも真近かと思われ

ます。 扨て、昭和五十四年にはいりまして、元旦の諸祭事を始め二月の例大祭又、恒例祭等恙なく奉仕して参りました。常も思っている事に祭祀の厳修と云う事が脳裡から離れません。種々な祭事の継続は現今の社会的事情を考えますと、並々ならぬ努力が必要とされま

す。 先の山口での合祀裁判に致しましても明らかに祭祀を重視する神道的立場の優位性が示されていると思

います。又元号法案が衆議院を通過し、参議院で審議中、国民の中で生きている天皇の象徴性が重要視され、評価されて行くであろうと考えます。我々神道人が現社会に起っている諸問題に真向から対処していく

姿勢を養わなければならぬ時代に来ている事を痛感せざるを得ません。どうか崇敬者の皆様、又全国津々浦々の神道へご理解のある方々日本の発展の為に大いなるご協力をお願い申し上げます。 時節柄お体にはご自愛下さいまして斯界一意専念に邁進されん事を切に望みます。

「世界教会協議会をたずねて」

神道国際友好会主催(昭和五十四年二月二十四日)昭和五十四年三月八日)の欧州宗教事情視察旅行の一コマとしてスイスのジュネーブに本部を置く世界教会協議会を訪問し我々神道人との研修会議の一部を紹介する。

会議内容の紹介にさきだち、少しジュネーブの町を紹介してみたい。ジュネーブ(Geneve)は、レマン湖の西端。そこからローヌ川(Le Rhone)が流れ出し、一、五〇〇m級の山、シラとサレーブに囲まれた情緒ある町で、典型的な大都市だ。遙かに標高四八〇七mのモンブランが仰ぎ見られ、国連欧州本部を持つ国際都市であり、人口の何と三四%が外国人。さらにジュネーブは、カルバン(Calvin)、ルソー(Rousseau)などの大思想家を輩出した思想の町。

の前身、国際連盟(League of Nations)が、第一次世界大戦後ウィルソン、アメリカ大統領の提唱により発足したのが一九二〇年、以来、連盟の本部となったのがこのパレ・デ・ナシオン。戦後再び国際連合が結成され、本部はニューヨークに定められたが、パレ・デ・ナシオンは、その欧州本部となった。レマン湖に臨む壮大な白亜の殿堂である。その筋向には国際労働機関(ILO)(International Labour Organization)日本政府の代表者、労働者の代表が常駐して労働問題にとりくんでいる。その横には世界保健機構(W.H.O.)国際通信連合(I.T.U.)世界気象機関(W.M.O.)、万国赤十字社、ガット(GATT)など。これらの諸機関で活躍する日本人が多い。ぼつぼつ本題に入りたいと思う。まずW.C.C.Cの創立は一九四八年アムステルダムで第三目的はキリスト教の各教派の統一。

命の問題、教会の布教の問題、教会の神学的問題、教会の統一の問題。

二、現代の社会に於て正義と奉仕であって、教会正義の問題、経済、人種の問題、人間発展の問題をとりあげいかに人類に貢献するかをとりあげている。

三、教育と更生であって信徒の問題、教会制度の問題、女性や青年の問題との三つが大きな仕事である。

W.C.C.Cの組織について

W.C.C.C全体の統轄は統幹事の仕事であってW.C.C.Cはオール、チャーチ、メンバーが仕事をしている。すべての教会がメンバーであるが、天主教(カトリック)は正式のメンバーには入っていない。但し神学部門ではカトリックも入っている。だから世界的な組織といっても過言でない。日本のキリスト教協議会、キリスト教団も、入っている。

た。

他宗教との対話はジュネーブだけでなく世界の各地で行っている。アジアでも二三の研究所があり、直接ジュネーブとつながっている。日本では京都に研究所があり、土居博士が、所長をしている。京都の研究所では過去、キリスト教と仏教、キリスト教と神道との対話が行なわれてきた。その他にW.C.C.Cは、キリスト教と回教(マホメット教)、キリスト教とユダヤ教、キリスト教とインド・ヒンズー教と対話を結んできた。この会は二つのキリスト教と他の宗教のみならず多くの宗教と会議をもってきた。対話の目的は、理論だけでなく共に合作、実践することにある。

対話目的は三つある

一、過去の長い間の諸宗教間の誤解を取除く世界の平和、人々の平和の為に他宗教を理解することが大切である。第一の対話の目的は、誤解を除き了解を深めることである。

二、世界の為に協力して奉仕する。貧困の問題、環境汚染の問題、経済の問題はクリスチャンの問題でなく人間の問題であり、お互いの問題である。

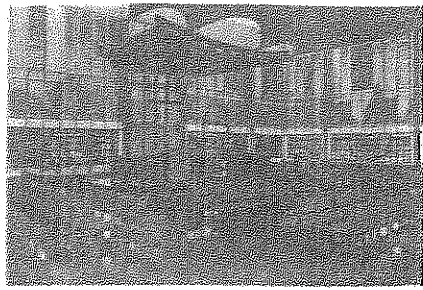
三、人間の問題に如何にして宗教の洞察を深めるかである。

ある。平和の問題は政治のみならず、心の中から出たものでなくてはだめだ。宗教に關係のある人々が宗教体験を平和の努力にもってゆくことがあるが、実際に複雑でむづかしい。

最後に教会と他宗教が如何にかかわりを持ち続けるかというのを一月W.C.C.Cの中央委員会に於て話し合いをしました。これはW.C.C.Cの歴史に大きな影響を与えるでしょう。長い歴史に重ねた宗教間の誤解は除くことがむづかしいこの問題に対処してゆくことを宣言しました。

この問題は諸宗教の協力が必要である。今後特に神道界の協力をお願いします。

つづく



— W.C.C.C本部内の教会と

— 研修会議風景 —

ヨーロッパ派遣研修報告

都農神社祓宣 志岐 秋吉

この度欧州宗教視察研修の機会を与えられました。私共四名(今山八幡宮々司岩切重信外三名)は責任の重大さと共にこの上もない名誉でもあり光栄であります。

先進国であるヨーロッパ諸国は、キリスト教(カトリック)を中心とした宗教国であり、キリスト教(カトリック)の偉大さは想像を絶する規模なものには驚歎いたしました。

特にローマバチカンでの法王との謁見した時、その偉大さを特に感じさせられました。

法王と共に敬虔な祈りを捧げる老若男女の姿は神々しくもあり尊厳そのものでした。翻て我が国は終戦後雨後の筍のごとく発生した宗教、いかに信仰の自由とは申すものの、何と云っても神を中心とし天皇を国の象徴としている日本こそ惟神の神道に添ったものであることだと思えます。神を祀り一億の国民の上に幸を授け將來ますます栄えること希う神事であることを思う時、生を日本にうけたことの喜びを外国に行つて初めて悟り

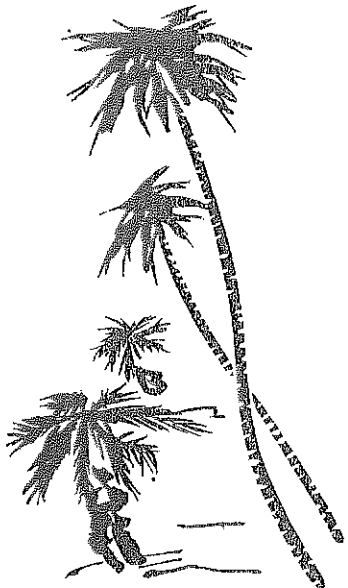
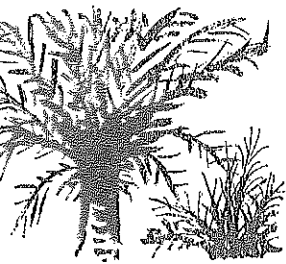
ました。

家庭を離れ祖國を後にした時、その温情豊かな風情と情愛あふるる家庭生活がこよなく懐しく感じました。この感じは只私のみではないと確信しているものであります。祖國を離れて初めて知る祖國愛というものでしょうか。我が國のよさは祖國を離れて見なければ解らないとよく聞きました。が全くその通りでありました。海外に出ることによって、各国の風情や社会のあり方を勉強することによって、日本を見つめ直す最もよい研修だと考える次第であります。心よりどころとしての神道その道に捧げる神道青年の一人でも多く海外研修をすることにより、神道のよき尊さを身をもって体験するものであり、神道の啓蒙と発展に寄与するものであることをヨーロッパ研修によって得た固い信念となりました。

今後はこの尊い経験を生かして只管神職に尚一層精進いたします。



— バチカン市内の一般湯見場 —



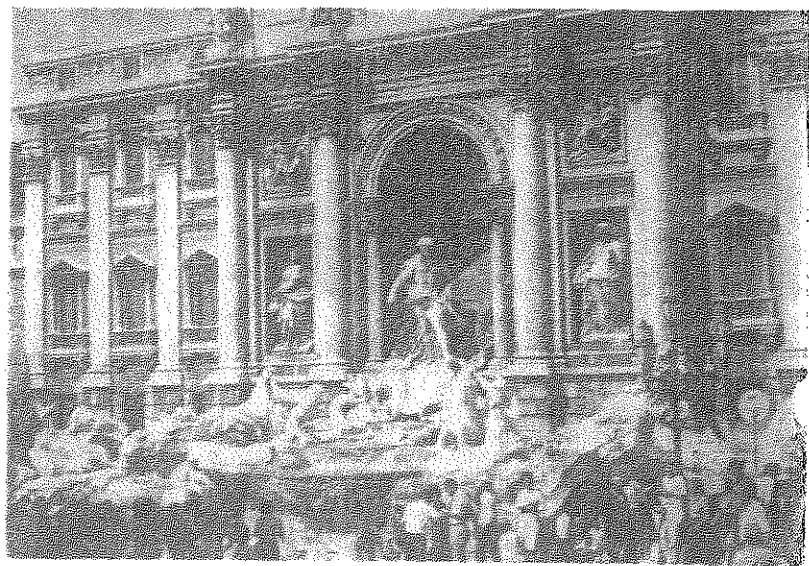
ていたという大浴場跡である。
 バスは更に進んで、**道の女王**と呼ばれるアッピア旧街道を走る。昔軍用道路として開かれた重要な道で、さまざまな歴史の跡を刻んで来た道である。この街道沿いに古代の墓、記念碑などが点々と残っている。中でも地下の共同墓地(カタコンベ)は有名である。かつてキリスト教徒が秘かに信仰を守った処で、地下洞は七、八メートルの深さで一メートル位の幅の通路が迷路の様に続き、両側は十段以上にも死者を埋葬し、まさに死者の一大アパートである。中には棺が開けられミイラも見えた。処々に明かりの暗い電燈が通路を照らしているが、ぞうつと背筋が寒くなり一人ではとても入れない黄泉の国である。カタコンベは数キロメートルも続いているものもあるという。
 バスは旧市内に戻り或る教会の前に止った。玄関に口を開けた神機の大木彫り木彫りがあった。悪人は手を噛まれてしまうという。恐る恐る手を入れたが噛まれなかった。
 中食は日本料理であった。「やっぱり日本料理はいいな——」とあちこち嬉しそうな声も聞ける。
 午後、彫像の素晴らしいテレビ

の泉へ、馬車に乗った海神と、二人の半人半魚の海軍が壮麗なバロック風の大理石で造られていた。処女の水から送られるという泉は、こんこんと溢れ出ている。「後向きにお金を投げたら旨く泉に入ったら、悪妻と分かる事が出来る。」と、誰かが笑わせていた。
 次に、古代ローマのヘソとも呼ばれ、栄華を語るフォロロマーノの壮大な廢墟を見る、アルコ・ディ・セッティミオ・セペロの凱旋門、シーザーの神殿をはじめ多くの建物の遺跡があり、当時の偉大な智と力を偲ばせる。
 次に、古代ローマを偲ぶバンテオンへ。コリント風の八柱廊をもち紀元前二七七年に建られた万神殿で、ローマ最古の建物である。
 柱の無いドーム天井には、光の効果を感じた採光窓があり、当時の建築のレベルの高さを語っている。ラファエロ、エマヌエーレ二世をはじめ、イタリアの著名人の遺体が安置されている。
 次に、ローマの中にある世界最少のパチカン市国へ。一九二九年ラテルノ条約調印によって生まれた独立市国で、なんと、〇、四四キロ平方メートルの国

イタリアは、特にスリに注意するように、手放した物は捨てた物と解釈してとられると言われたので、主な財布とパスポートはホテルに預けた。
 午前ポンペイを見学する。紀元七十九年ベスピオ火山の灰で埋って、十六世紀に至り、運河工事によって発見され、掘り出される一八六〇年まで実に一七八〇年間も人に知られず眠っていたローマ貴族の別荘地として、都市計画された素晴らしい遺跡である。
 自然石の平たい大石で敷詰められた狭い道路の両側は歩道として高くしてあり、雨降りに道は、たちまち排水路となる。道路、上水道。共同浴場、神殿、劇場、邸宅壁面、生活用品など当時のローマ貴族の風俗、生活、美術工芸等を知る貴重な遺跡で、偉大な文化の跡がみられる。大通りの四辻の中央の敷石に男性のシンボルの巨砲がズバリ彫ってあるのが目にとまった。その簡先は女郎屋の方向に向いていた。まことに大らかな道標である。
 バスはナポリへ、途中休憩した処に、貝に浮彫をする飾身具のカメオを作っている店がある。立売りが、ジャパンと見て「モシモシカメヨ」と売りに来

る。そこへ三才から七才位の裸足で衣服の汚れた不浪児が六、七人食べ物をねだって集って来た。日本の終戦当時の戦災都市を思い出し、見かねてオカキを恵んだ人もいた。この辺は道路も紙屑で汚れていた。
 バスはイタリア南部ナポリの港の市に入る。道幅は狭く、両側に昔建てられた四、五階建てのレンガ造りが続く、三階以上の各窓から長い竹竿を出して、びっしり洗濯物を掛けて干している。それはそれは奇妙な萬籟飾で歓迎してくれた……
 新築の高樓のレストランからナポリの古い市を見おろすレンガ造りの街並は静かで眠っている様である。眼前に広がる大きなナポリ湾があり、遙かにベスピオ火山を望み、実に絵画的な景観である。
 食卓につくと、婦人連中は「お水、お水」と所望する。ヨーロッパは水が悪いので呑み水は瓶詰めのお水ミネラルウォーターである。ジュースよりも高いのである。ヨーロッパで、水、水とやたらに水を呑むのは、犬とジャパンだけだという。
 九月十二日(イタリア)
 ローマの北の玄関だというポ

ポロ広場をバス中から見る。エジプトのオベリスクが中央に建っている。
 古い市街を囲む城壁に、イタリアの侵略の歴史を物語る地図を見て、スペイン広場カンピドリオ広場等を通り、コンスタンティノの凱旋門に至る。一行合流して記念写真を撮る。この凱旋門のすぐ後に有名なコロッセオの遺跡がある。五万人の観衆を湧かせたという円周五二七米のとてつもない大円形の娯楽センターの遺跡である。一九〇〇年前に、テイトウス帝によって完成したもので、剣闘や、猛獣狩りなど命をかけた競技が行なわれた処であるという。建物の表面の大理石は、今はすっかり剝かれて土台の形だけであるが、驚くべき遺跡である。
 バスはローマ発祥の地パラチアイノ丘を展望する処に出る。ローマを建国したロムスは双子の弟と共にこの地で狼に育てられたという伝説地である。後に貴族の邸宅や官殿が建てられた。
 次にカラカラ浴場跡を高い道から見る。一六〇〇名が一度に入浴が出来たという当時の娯楽センターで、図書館、体育室、食堂をはじめ各種の設備を待



一 泉のテレビ

抱く聖母マリアの像、ピエタ法王の遺体、まことに靈気が漂うカトリックの大本山である。ミニスカートの、ホットパンツでは入れない。玄関左横の門前に、派手な民族衣裳の衛兵が立っていて人気を呼んでいた。
 最後に緑さわやかなジャンicolの丘に登りローマ市内を眺望する新しい建物と古い遺跡と独特の調和をみせている。ローマはテベレ河畔に栄え、古代ローマ以来の永遠の都である。イタリアの首都で政治、文化、宗教の中心地である。旧市街は一七〇〇年前に築かれた城壁に囲まれている。「ローマは一日にして成らず。」名語である。
 この岡に建っているガリバルディ將軍の騎馬像も市を見おろしていた。 つづく



ヨーロッパ駆け足(4)

権宮司 佐藤美春

昭和五十二年
 九月十一日(イタリア)
 フランス、イギリス、スベ



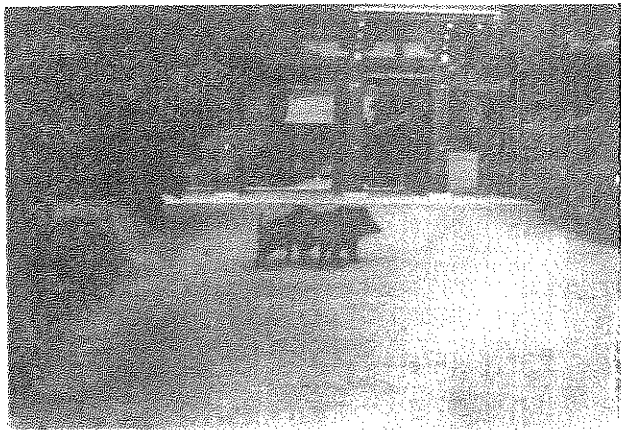
ン、スイス、西ドイツと駆け足で通って十日の夜半にイタリアのローマに着いた。
 ーコロッセオー

イタリアは、特にスリに注意するように、手放した物は捨てた物と解釈してとられると言われたので、主な財布とパスポートはホテルに預けた。
 午前ポンペイを見学する。紀元七十九年ベスピオ火山の灰で埋って、十六世紀に至り、運河工事によって発見され、掘り出される一八六〇年まで実に一七八〇年間も人に知られず眠っていたローマ貴族の別荘地として、都市計画された素晴らしい遺跡である。
 自然石の平たい大石で敷詰められた狭い道路の両側は歩道として高くしてあり、雨降りに道は、たちまち排水路となる。道路、上水道。共同浴場、神殿、劇場、邸宅壁面、生活用品など当時のローマ貴族の風俗、生活、美術工芸等を知る貴重な遺跡で、偉大な文化の跡がみられる。大通りの四辻の中央の敷石に男性のシンボルの巨砲がズバリ彫ってあるのが目にとまった。その簡先は女郎屋の方向に向いていた。まことに大らかな道標である。
 バスはナポリへ、途中休憩した処に、貝に浮彫をする飾身具のカメオを作っている店がある。立売りが、ジャパンと見て「モシモシカメヨ」と売りに来

る。そこへ三才から七才位の裸足で衣服の汚れた不浪児が六、七人食べ物をねだって集って来た。日本の終戦当時の戦災都市を思い出し、見かねてオカキを恵んだ人もいた。この辺は道路も紙屑で汚れていた。
 バスはイタリア南部ナポリの港の市に入る。道幅は狭く、両側に昔建てられた四、五階建てのレンガ造りが続く、三階以上の各窓から長い竹竿を出して、びっしり洗濯物を掛けて干している。それはそれは奇妙な萬籟飾で歓迎してくれた……
 新築の高樓のレストランからナポリの古い市を見おろすレンガ造りの街並は静かで眠っている様である。眼前に広がる大きなナポリ湾があり、遙かにベスピオ火山を望み、実に絵画的な景観である。
 食卓につくと、婦人連中は「お水、お水」と所望する。ヨーロッパは水が悪いので呑み水は瓶詰めのお水ミネラルウォーターである。ジュースよりも高いのである。ヨーロッパで、水、水とやたらに水を呑むのは、犬とジャパンだけだという。
 九月十二日(イタリア)
 ローマの北の玄関だというポ

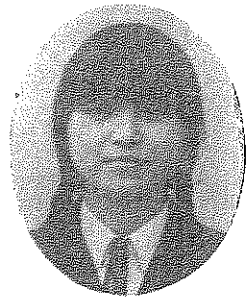
ポロ広場をバス中から見る。エジプトのオベリスクが中央に建っている。
 古い市街を囲む城壁に、イタリアの侵略の歴史を物語る地図を見て、スペイン広場カンピドリオ広場等を通り、コンスタンティノの凱旋門に至る。一行合流して記念写真を撮る。この凱旋門のすぐ後に有名なコロッセオの遺跡がある。五万人の観衆を湧かせたという円周五二七米のとてつもない大円形の娯楽センターの遺跡である。一九〇〇年前に、テイトウス帝によって完成したもので、剣闘や、猛獣狩りなど命をかけた競技が行なわれた処であるという。建物の表面の大理石は、今はすっかり剝かれて土台の形だけであるが、驚くべき遺跡である。
 バスはローマ発祥の地パラチアイノ丘を展望する処に出る。ローマを建国したロムスは双子の弟と共にこの地で狼に育てられたという伝説地である。後に貴族の邸宅や官殿が建てられた。
 次にカラカラ浴場跡を高い道から見る。一六〇〇名が一度に入浴が出来たという当時の娯楽センターで、図書館、体育室、食堂をはじめ各種の設備を待

一 祝祭日には
日の丸を
あげましょー



ーイノシシ現われるー

でも、頑張らなければいけな
いと思います。それに、先輩た
ちと親しくなれて、話しが出来
るかなあと、心配していました
が、とても良い人ばかりで、な
んでも気軽に話せるので良かつ
たと安心していきます。
ほんとうに、学生のころは冗
談ばかり言ってすごしていま
した。が神宮に奉仕してからは冗
談も云はず奉仕していることに
きつき、ずいぶんと変わったもの
だと自分ながら驚いています。



イノシシ君の参拜

今年の二月以来当神宮境内地
を我が庭のように走り廻ってい
るイノシシ君は、昼夜を問わ
ず、出没する。去る四月終り、
楼門前の参道へ、三匹なかよく
現われた。驚いたのは参拝者の
方々、曰わく、「鶴戸神宮では
イノシシを養っているのですか
?」「いや、とんでもございま
せん、イノシシ君も参拝客の方
々へ、チョイとご挨拶に」と言
った問答も……。

当神宮十二万坪に及ぶ境内地
は鳥獣保護区になっている為、
いろんな動物が棲んでいるが、
中でもイノシシ君は参拝客の方
々には特異の存在に違いない。
やはりこの境内地に住み心地?
が良いのか、シッポを振り振り
じっと人を見ているすがたはユ
ーモラスである。
我々も偉大な自然に棲んでい
る動物達に親しんで、日頃の煩
雑な心を一時でも潤し、なごま
せながら、自然の保護へ力を注
ぎたいものである。

ー鶴戸神宮交通安全講発足ー

鶴戸神宮自動車被所が昭和四十
九年五月完成して以来、五年を
経た現在毎年千件以上の祈願を
奉仕して来ましたが、交通安全
を願う皆々様より一層充実し
た生活を送って頂く様五年を一
区切として交通安全講を発足す
るに至りました。

崇敬者皆様の御入講を心より
お待ち申し上げます。内
容は左記の通りです。

講員種別とその講費・
待遇表

講員種別	年 講 費
正 講 員	六千円也
名誉講員	多額金品奉納 者格別功勞者
特別講員	一万二千円也

注・神宮大祭案内とは二月一日

・二月十七日・十一月二十
三日の三大祭をいう。但し
特別講員は二月十七日・十
一月二十三日の二大祭に案
内する。

車被特別扱いは一般祈願
者の祈願初穂料一、金五千
円也を講員の方々のみ
一、金三千円也でおまつり
を御奉仕いたします。

申込先 日南市宮浦三、二三二
鶴戸神宮社務所
電話(0942)①一〇〇一

待遇	講員種別	神宮大祭案内	交通安全特別	講 標 札	講 員 証	昇殿参拜	社 報	車被特別扱
名譽講員	○	○	○	○	○	○	○	○
特別講員	○	○	○	○	○	○	○	○
正 講 員	○	○	○	○	○	○	○	○

新任の挨拶

赤 宜 平 田 通



「鶴戸さん詣りは春三月に：
御縁日」……正しく歌詞の通
りの。のどかな処である。
縁あつて神宮に奉仕する事にな
つてから早五ヶ月は過ぎた。
宮司さん初め職員の方々は以
前から顔見しりの方が多かった
ので思ったより早く溶け込む事
が出来たのは何よりも幸せであ
つた。小さな神社とは異なり別
表神社なので何から何まで真新
しい事ばかりである。祭式など
余り得意ではないが職員の方々の
思いやりでどうにかついて行
ける様になった感じがする。潮
風を胸一杯に吸い日供祭をまだ

暗い中に奉仕する状は神職なら
ではの誇りさえ湧いてくるので
ある。

神宮周辺は禁猟区ともなつて
いるので猪の子連れが偶参道に
お邪魔する有様で参拝人の方々
によく聞かれるのである。(神
宮では猪を飼育しておられるの
かと……)。鶯の声も名調子。
神宮風景を参拝者に楽しませて
くれる一コマでもある。
神職としての誇りを身に感じ
神宮奉仕に一心を捧げたいと思
つております。今後共尚一層の
御指導を御願ひ致し、新任の挨拶
と致します。

新任の挨拶

稲 寿

新幹線の中での気持ちは複雑
なものでありました。これからの
自分の将来というものについて
あれこれ考えていますに、ど
うこれから自分の人生が開ら
てくるか九州行きにかかつてく
るものと思われ時間の経つのも
忘れる思いでした。

九州は自分にとって未知の世
界、風土の違い。言葉の違い、味
覚、交通機関の違い、今までは
違う生活が続けるのですから、
大変と思う気持ち、焦りが
出て来る思いでした。



さて 鶴戸神宮へ、御奉仕し
て一ヶ月経ちました現在、どう
にか神宮での生活も馴れ、新し
い一人の神道人として生活して
います。

宮崎より車で、一時間のこの
鶴戸神宮は、御社殿が洞窟の中
に鎮座されており、回りの風景

と良く調和がとれていて、参拝
される方々の心を和ませていま
す。その神宮へ御奉仕したから
には、一日を神宮の為真心をこ
めて、御奉仕していきたいと思
います。
今後とも尚一層の御指導をお
願ひします。

鶴戸神宮に

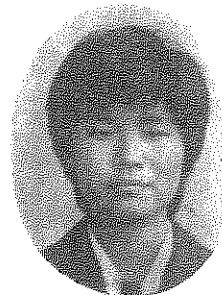
奉仕して

川 嶋 早 苗

巫子見習の辞令をいただいて
もう二ヶ月になろうとしていま
す。

お正月にアルバイトをしまし
たので、別に緊張したというこ
とはありませんでしたが、奉仕
してまもなく、借を貸していた
だきました。家に帰って吹いて
みましたら、二、三日は音が出
ずに、息がスースーとぬけるば
かりで、吹けるようになるだろ
うかと、少々不安になりました
た。しかし、口のあて方から息
の出し方まで教えて下さいまし
たので、どうにか音も出るよう
になりました。四月十一日の天
皇皇后両陛下御参拝記念祭に出
していただきました。とても緊
張して、どこを吹いているのか
全く頭になくただ先輩の方ばか

り見ていて、他は何も覚えてい
ませんでした。
まだまだ学生の気分から脱け
きれずに諸先輩方に甘え、失敗
を繰り返している毎日です。
これからもせいっぱいお宮に
御奉仕して行きたいと思ってい
ます。



巫子になって

浜 門 み どり

私が、鶴戸神宮の巫子になろ
うと思ったのは、就職するなら
家から近い所がいいなと思っ
ていたからです。

でも、勤めてみてわかったこ
とは、やはり学生時代と違う面
が沢山あると言ふことです。巫
子になったら、笛とか太鼓を覚
えなければいけないことは、分
ていましたが、その他にもい
ろいろと、覚えなければいけな
いなんて、思いもありませんで
した。

私にも、出来るかなあと、ふ
と、考える時があります。

昭和54年鶴戸神宮御神事一覧表

6月

1日	10時		月次祭
5日	10時	一の卯	縁日祭
30日	10時	末社	住吉神社例祭
30日	10時	末社	九柱神社例祭
30日	16時		大祓

7月

1日	10時		月次祭
11日	10時	一の卯	縁日祭
13日	10時		昭和遷座記念祭

8月

1日	10時		月次祭
4日	10時	一の卯	縁日祭
4.5日			御神幸祭

9月

1日	10時		月次祭
9日	10時	一の卯	縁日祭
15日			敬老祭
24日	10時		秋分祭

10月

1日	10時		月次祭
3日	10時	一の卯	縁日祭
13日	10時		竈山神社遙拝
17日	11時	中祭	神嘗祭当日祭
27日	10時	末社	福智神社例祭
29日	10時	末社 旧9月9日	皇子神社例祭

11月

1日	10時	一の卯	月次祭
3日	11時	中祭	明治祭
8日	10時	一の卯 立冬	縁日祭・御衣祭
15日			七五三祭
17日	10時		儀式殿鎮座記念祭
23日	11時	大祭	新嘗祭(五穀豊穣感謝祭)
24日	10時		水神祭

12月

1日	10時		月次祭
2日	10時	一の卯	縁日祭
3日	10時	末社	火産靈神社例祭
15日	10時		門守祭
23日	10時		大正天皇御陵遙拝
27日	10時		煤払祭
31日	16時		大祓
31日	17時		除夜祭

備考

10月29日 (旧9月9日)

吹毛井部落皇子神社例祭

10月30日 (旧9月10日)

宮浦神社例祭

11月9日 榎原神社例祭

編集後記

茲に社報13号をお届け致します。本号は新巫子紹介と佐藤権富司のヨーロッパ駆け足(4)を中心に編纂してみました。次号より崇敬者皆様のご意見又随筆、川柳、俳句、短歌等を広く掲載致したいと思っておりますので、皆様方の方より多くの募集をお待ち申し上げます。

送付先

〒 八八七〇一

日南市宮浦三、二二三二

鶴戸神宮社務所宛

又全国の神社、諸団体様からの図書、社報等の配布物を何時ながら、ご惠送頂き誠に有難く、誌上を以って厚く御礼申し上げます。今後共宜敷くお願い申し上げます。

